

通
常
銀
行
條
例

全

大
正
十
一
年
四
月



114
A 1138
2

通常銀行條例

要領

- 一 此條例ハ何事ニ付テモ通常銀行條例ト称スヘシ
- 一 此條例ハ何年何月ヨリ施行スヘシ
- 一 此條例施行ノ後ハ之ヲ遵奉スルカ又ハ他ノ條例ヲ遵奉シテ創立スルニ非レハ今後銀行ノ業ヲ営マンカ為メ十人以上結社スルヲ許サス
- 一 金銀ヲ貸附ケ諸預リ金ヲナシ為換ヲ取組ニ或ハ手形ヲ割引スル等ヲ以テ專業トシ又ハ傍テ其業ヲ営ム諸會社ハ都テ銀行ノ業ヲ営ムモノト見做スヘシ
- 一 此條例議定後ハ國立銀行ノ外何人又ハ何會社ヲ問ハス望次第持参トヘ仕拂フヘキ約定手形及ヒ

大 義 省

右類似ノ証各ヲ振出シ其引請ヲ為シ之ヲ製シ之
ヲ發行スルヲ禁ス又ハ後日ノ日付ヲ記シタル手
形又ハ切手假令ハ五月一日ニ發行スル手形又ハ切手
其ノ他正金同様ニ通用スヘキ諸手形ヲ振出シ其
引請ヲ為シ之ヲ製シ之ヲ發行スルヲ禁ス

此條例ハ之ヲ十條ニ區分ス則チ如左

第一條 銀行創立ノ手續ヲ明ニス

第二條 銀行元金ノ制限株金ノ定規株主ノ責
任ヲ明ニス

第三條 債主ノ權利并ニ其制限ヲ明ニス

第四條 株主ノ權利并ニ其制限ヲ明ニス

第五條 銀行役員ノ勤向并ニ禁制ヲ明ニス

第六條 銀行事務一般ノ取扱方ヲ明ニス

第七條 銀行ハ為換方ヲ勤ムルヲアルノ手續
ヲ明ニス

第八條 銀行償債ノ手續ヲ明ニス

第九條 銀行ノ事務實際検査及ヒ銀行訴訟ノ
手續ヲ明ニス

第十條 銀行ハ追テ税金ヲ納ムヘキト并ニ條
例改正等ノ手續ヲ明ニス

通常銀行條例

第一條 銀行創立ノ手續ヲ明ニス

第一節 凡ソ通常銀行ヲ創立セントスルニハ五人以

上ノ人員銀行創立ノ願旨ヲ紙幣頭ニ差出スヘシ

但郵便ヲ以テ其願旨ヲ送達シテモ可シカラス

第二節 此願旨ニハ銀行營業場所并ニ其社号元金高

等ヲ簡明ニ記載シ願請人之レニ調印スヘシ

第三節 此五人ハ即チ發起人タルヘシ而シテ此條例

ノ条款ニ從テ株數ノ届込并ニ取締役ノ撰挙相濟ム

迄ハ都テ銀行ノ事務ヲ擔當スヘシ(第五節ヲ參考ス

ヘシ)

第四節 紙幣頭ハ其願旨ヲ受取ラハ其者共ノ職業身

分資本人物其他當ニ關係ノ事件等ヲ指索シ之ヲ許

大 歳 首

可シテ相当ト思量スレ、之ヲ大藏卿ニ差出シ其許
可ヲ得テ右發起人ニ創立証書并ニ定款、差出方ヲ
命スヘシ

第五節 是ニ於テ發起人ハ既ニ召募セシニ非レハ株
金ノ募方ニ取掛ルヘシ但株主全ク定テ後一回ノ根
議ニ由リ取締役五人以上ヲ撰挙シ然レ後右取締役
ノ姓名職業及ヒ住所届書ヲ添へ下ニ規定スル方法
ヲ以テ第六節及第八節ヲ参考スヘシ記名調印シタ
ル創立証書并ニ定款三通宛テ紙幣頭へ差出スヘシ
若シ創立証書并ニ定款ヲ差出スヘキ許可ヲ得ルト
虽氏發起人等直ニ之ヲ差出スルヲ怠リ其日ヨリ三
ケ月中ニ紙幣頭ニ達セサル片ハ此許可ハ取消タル
ヘシ

第六節 此創立証書ニ掲載スヘキ要件ハ

第一 銀行ノ名号

但此名号ハ在來ノ銀行ト同号ハ勿論類名ニシ
テ紛乱シ易キ名号ヲ唱フ可カラス之在來ノ銀
行解散中ニテ且紙幣頭ノ命スル方法ヲ以テ右
銀行之ヲ承諾スレハ同号タリトモ苦シカラズ
第二 銀行ノ業ヲ営ムヘキ場所及ヒ本店ヲ置ヘ
キ府縣

第三 元金高及ヒ株數

第四 各株主ハ社中タル間ハ勿論退社ノ後一年
間ニ銀行鎖店スルヲアルハ其退社前ニ届スル
銀行ノ負債及ヒ鎖店ノ入費ヲ兼弁シ社中ノ出
入ヲ均ウスルヲ為メ入金未済高ト其所持セル

株數ノ價トニ割過セザルハ如何程ノ高ニテモ
出金スヘキ旨

第五 此創立証各ハ此條例ヲ遵奉スヘキ人ノ為
メニ便宜ヲ謀テ取極タル旨

右創立証各ハ之ヲ三通ニ認メ株主一同記名調印シ
且名印ニ對シ其住所職業等ニ所持ノ株數ヲ記載シ
地方官ノ與印ヲ得テ後之ヲ紙幣頭ニ差出スル

第七節 定款中ニ創立証各ハ條款ヲ更正シ得ヘキ箇
條アルルハ下ニ掲ケタル如ク(第四條第四節ヲ參考
スヘシ)別段決議ヲ以テ創立証各ノ條款ヲ更革シテ

此條例ノ箇條ニ從ヒ適宜ニ元金ヲ増減スルヲ得ヘ
シ(第二條八節ヲ參考スヘシ)且ツ紙幣頭ノ承諾ヲ得
レハ右別段決議ヲ經ストモ創立証各ニ掲載セザル

場所ニ出店ヲ開キ又ハ本店ヲ轉移スルヲ得ヘシ但
右ノ外何レノ銀行タリモ創立証各中ノ條款ヲ改正
スルヲ得ヘカラス

第八節 銀行定款ハ其創立ノ目的及ヒ營業ニ付テ株
主等此條例ニ依テスシテ便宜ト思考スル規則ノ節
ヲ分ツテ順次ニ記載スヘシ

此定款ハ創立証各同様三通ニ認メ株主等記名調印
シ地方官ノ與印ヲ乞テ之ヲ紙幣頭ニ差出スヘシ

第九節 此條例ニ從テ創立セル銀行ハ紙幣頭ノ承諾
ヲ得テ後條例ノ箇條ニ從ヒ下條ニ掲ケタル如ク(第
四條四節ヲ參考スヘシ)別段決議ヲ以テ定款中ニ掲
ケタル諸規則ヲ改正シ人ハ新規則ヲ設テテ從前ノ
規則ヲ取消シ或ハ之ヲ增加スルヲ得ヘシ而シテ右

大 裁 省

ノ如ク取極メタル規則ハ元來定款中ニ掲載シタル
ト同様確實ノモノ下見做シ且何時ニテモ別段決議
ニ由テ之ヲ改正シ又ハ之ヲ廢止スルヲ得ヘシ
但定款中現時債主タルモノ、權利安全ヲ害スヘ
キ改正ヲ為スヘカラス

第十節 此條例ニ從テ創立セル各銀行ハ創立証書調
製ノ日ヨリ一團ノ會社タルヘシ然レモ紙幣頒閣業
ヲ許可セサル内ハ創立ニ付テ不時ニ差起ルヘキ事
故若シ閣業前必要ナル件々ノ外決シテ事務ヲ取扱
フ可カラス

第十一節 紙幣頭ハ創立証書若シ定款ヲ検査シ之ヲ
可ナリトセハ直ニ大藏卿ニ差出シ其承認ヲ得次節
ニ掲ゲタル手續ヲ經テ右銀行ハ閣業免狀ヲ下渡ス

ヘシ
但シ証書定款共本紙ハ記録簿ニ納メ寫一通ハ紙
幣寮ノ公啓中ニ綴込ニ一通ハ紙幣寮ノ官印ヲ鈐

シテ閣業免狀ト共ニ銀行ニ渡スヘシ
第十二節 紙幣頭ハ閣業免狀ヲ下渡ス前右銀行元金
ノ内適當ノ割合ハ既ニ入金シタルヤ右入金高ノ内
規定ノ割合ハ公債証書ニ取替ヘ出納寮ハ紙メタル

ヤ第六條第一節第五節第六節ヲ参考スヘシ各株主
ハ正ク株數ヲ所持スルニ相違ナキヤ右銀行ハ其創
業ニ付此條例ニ規定セル諸般ノ手續ヲ履行セルヤ
否ヲ検査シ而シテ右検査ノ次第ヲ閣業免狀ニ記載
スヘシ

第十三節 銀行ハ閣業免狀ヲ得テ初テ公然其社号ヲ

稱シ其業ヲ始ムルヲ得ヘシ

第十四節 各銀行ハ營業ヲ始ムル前ニ開業前ノ事務ヲ明細ニ示シ且集合元金所有ノ公債証券資産創業入費等ヲ掲載セル正算各ヲ製シ頭取ヲ締役兩人記名調印シテ少クモ開業前六日ニ紙幣頭ハ差出スヘシ而シテ其馬ヲ起業前六日以上本店ヲ設立シタル地ノ新聞紙又ハ本店最寄ノ新聞紙ニ載スヘシ且開業免狀ノ寫ヲモ同新聞紙ニ載セ營業ヲ始ムル前六日ヨリ少クモ三十日間世上ニ公告スヘシ

第十五節 銀行ハ此開業免狀ヲ得タル上ハ後條ニ掲ケタル情實第七條ヲ參考スヘシ又ハ此條例ノ改正或ハ廢止ノ令アリテ鎖店スルニ非レハ右免狀ノ日附ヨリ二十ヶ年ノ間其社号ヲ以テ營業ヲ取続クヘシ

第十六節 紙幣寮ノ官印ヲ加ヘタル開業免狀創立証各銀行定款ハ何レノ裁判所何レノ公廳ニ於テモ之ヲ確正ノ証拠トシテ採用セラルヘシ

第十七節 此條例ニ從テ創立セル銀行ニテモ又ハ國立銀行條例ニ從テ創立セル銀行ニテモ一二坐以上申合紙幣頭ノ許可ヲ得テ適宜ノ約束ヲ取極メ互ニ混同合併シテ銀行ノ名号ヲ以テ其業ヲ営ムトヲ得ヘシ

第十八節 銀行頭取ヲ締役ハ其社印並ニ諸役員ノ印鑑ヲ紙幣寮ニ差出スヘシ
第二條 銀行元金ノ制限株主ノ責任ヲ明ニス

第一節 此條例ヲ遵奉シテ創立スル銀行ノ元金高ハ
十萬圓ヨリ下ル可カラハ

但時宜ニヨリ大藏卿承認シテ右金高ヨリ以下ニ
テモ差支ナシトセハ許可スルイアルヘシ

第二節 右元金ヲ分チ百圓又ハ五十圓宛ヲ以テ一株
トナスヘシ

但一株百圓ノ銀行ハ其株悉皆百圓タルヘシ
但一株五十圓ノ銀行ハ其株悉皆五十圓タルヘシ

第三節 此株數ハ定款ニ取極タル方法ヲ以テ讓渡勝
手タルヘシ且株數ニハ番号ヲ附シテ區別スヘシ

第四節 創立証書及ヒ定款ニ連署シタル人々ハ初登
、株主トシテ後ニ記載セル株帳ヘ其姓名ヲ登記ス
ヘシ且讓渡ニテ株主トナルモノ又ハ追テ入社シタ

ルモノモ同ク其姓名ヲ株帳ニ登記シ其株高ニ應ジ
前株主同様ノ權利責任ヲ負スヘシ而シテ右ノ如ク
株帳ニ姓名ヲ登記セル人々ハ勿論銀行ノ株主タラ
ンコトヲ承諾セルモノト看做スヘシ

第五節 銀行ハ株帳二冊ヲ備ヘ置クヘシ則此帳中ニ
ハ左ノ要件ヲ記載スヘシ

第一 姓名住所家業株數番号入金高

第二 入社ノ日附

第三 退社ノ日附

此箇條ヲ怠リタル銀行ハ一日怠ル毎ニ拾圓ノ罰金
ヲ納メシムヘシ

第六節 此條例ヲ遵奉シテ創立セル銀行ハ毎年第一
定式集會後第十四日ニ當リ其社中タル者ノ目錄ヲ

大 歳 目

製スヘシ此目録ニハ株主ノ姓名住所家業所持ノ株
数ヲ記載シ且左ノ要件ノ略記スヘシ
第一 銀行ノ元金高若總株數
第二 一株ニ付入金高
第三 入金済總高
第四 入金未済總高
第五 没收株ノ總高
第六 前年目録ヲ製シタル後退社セル人ガノ姓名
住所家業及ヒ其人ノ所持セシ株數
右ノ目録若シ略記ヲハ別ニ株帖ノ一部ヘ記入スヘ
シ且是等ハ右第十四日ヨリ七日ノ内ニ製シ上ケ
其写ヲ直ニ紙幣頭ヘ呈シ各株主ヘモ写一通宛ヲ配
賦スヘシ

第七節 此條例ニ從テ創立セル銀行ハ一年中三十
日ニ過キカレハ何時ニモ定款ニ掲ケタル規則ニ
從ヒ其株式ノ賣買ヲ禁スルヲ得ヘシ
第八節 各銀行ハ總株三分二以上ノ株主等ノ協議ニ
拠テ其元金高ヲ増減スルヲ得ヘシ尤右増減ハ大裁
卿ノ承認ヲ得テ紙幣頭之ヲ許容スヘシ且元金減少
ノ場合ニ於テハ下條ニ掲載スル如ク其趣ヲ債主ニ
通知シ(第三條四節ヲ参考スヘシ)將又此減少ニ由テ
其元金ヲ定規ノ高ヨリ下ラシム可カラズ
第九節 此條例ヲ遵奉シテ創立シタル銀行領店スル
トアレハ其株主ハ現時社中タルモノト既ニ退社セ
ルモノトヲ問ハス各出金シテ右銀行ノ負債並ニ領店
ニ付テノ諸入費ヲ兼弁シ社中ノ出入ヲ平均スヘシ

其制限左ノ如シ

第一 願店ノ手續ニ取掛ル一ヶ年前ニ退社セル株

主ハ出金スルニ及ハス

第二 既ニ退社セル株主ハ右退社後ノ銀行ノ負債

ハ出金スルニ及ハス

第三 此條例ノ規定ニ從ヒ必要ナル出金ヲ現時ノ

株主ノミニニテハ負擔スルヲ能ハスト紙幣頭

思考スル片ニ非レハ既ニ退社セル株主ハ出

金スルニ及ハス

第四 各株主ヨリ取立ヘキ出金ハ創立証書ニ於テ

規定スル金高ニ刺過ス可カラス

第五 株主ノ預金貸金等ハ勿論他ノ債主同様之ヲ

償却スヘシト雖モ仕拂未済割賦金ノ類ハ他

ノ負債亦償相済マサル内ハ銀行ノ借財ト看

做サレヘシ但結局殘金ヲ配賦シ社中ノ濟方

ヲ為スノ時ニ至リ此クノ如キ金額モ都テ之

ヲ算入スルヲ得ヘシ其算則左ノ如シ

一 一百万圓 元金高

一 拾万圓 仕拂未済割賦金

一 合百拾万圓

一 五拾万圓 負債償却済殘金

此殘金五拾万圓ヲ百拾万圓ニ割付クヘシ即

チ株主ハ株金ト仕拂未済割賦金トヲ問ハス

百圓ニ付四拾五圓四拾五圓ヲ得ルナリ

第十節 此條例ニ從テ創立セル銀行ノ株數授受ニ付

テ取結ヒタル賣買ノ諸約定ハ判然其株數ノ番号ヲ

大 省

各載スルニ非レハ都テ廢棄ニ屬スヘシ而シテ賣買
本人ニテモ中買人或ハ代人ニテモ右約定各中ニ株
數ノ番号又ハ右株主ノ姓名等ニ付詐譎ヲ記載スル
モノアラハ相当ノ罪ニ処スヘシ

第三條 債主ノ權利並ニ其制限ヲ明カニス

第一節 各銀行ハ本店枝店トモ其營業場所ハ都テ紙
幣案ノ記録ヲ受テ轉移ノ節ハ直ニ紙幣頭ニ届出シ
ハシ

第二節 此條例ヲ遵奉シテ創立スル銀行ハ其營業本
ル店頭ノ容易ク觸目スヘキ場所ニ讀易キ文字ヲ以
テ其社号ヲ掲ケヘシ而シテ其社印ハ彫刻シ或ハ報
告各等ニ記載スル社号其他為換手形約束手形切手
諸手形並諸切手ノ裏各注文各受取証各及ヒ請合狀

等ニ記載スル社号モ都テ讀易キ文字ヲ以テスヘシ

第三節 右銀行ハ社員十名ニ下ルト雖モ尙ホ減員ノ
際ニテ六ヶ月間營業スル片ハ右六ヶ月ノ銀行ノ履
債ハ其間社中ノ一員ニシテ現在十名以下ノ人員ヲ
以テ其業ヲ営ムトヲ熟知スル所ノ株主銘々之ヲ擔
當兼弁スヘシ且右負債ニ付テハ銀行ヲ相手取ラス
前頭株主ノ一人ヲ相手取り公裁ヲ乞ヒ得ヘシ

第四節 此條例ヲ遵奉シテ營業スル銀行若シ其元金
ヲ減少セントシテ別段ノ決議ニ及ヒシ片ハ此決議
ヲ施行スル前少クモ三ヶ月ニ預リ金アル得意先ハ
之ヲ報告スヘシ右報告各ノ方法ハ直達ニテモ或ハ
郵便ヲ以テ各翰ヲ送達スルモ苦シカラス且右減少
ノ趣ヲ三種ノ新聞紙ヲ以テ三ヶ月以上報告スヘシ

大 歳 省

但右報告各ハ元金ノ減少高ト其残り元金高ト
ヲ載スヘシ

第五節 銀行元金ヲ減少スル片其銀行ニ貸金預ケ金

等之レアル人々ハ右減少ヲ施行スヘキ日限ニ於テ

未タ仕拂期日至ラスト虽モ其日限前一ヶ月ヨリ何

時ニテモ其償却ヲ乞フノ權アルヘシ則チ左ノ如シ

第一 定期預金アル人ハ元金号ニ當日迄ノ利足ヲ受

取ルノ權利アリ

第二 其他何ニ限ラズ右銀行ヨリ受取ルヘキ勘定ヲ

ル人ハ時ノ相場ヲ以テ其仕拂期日迄ノ利息ヲ

引去リ残金高ノミヲ請取ルノ權利アリ

第六節 右銀行元金減少ノ報告或ハ公布ヲ怠リ又ハ

期限未滿ノ負債ヲ償却スルヲ拒ム時ハ紙幣頭其元

金減少ノ許可ヲ與ヘサルヘシ

第七節 其元金ヲ減少スル時ハ右減少ノ當日ヨリ紙

幣頭ノ相當ト思考スル時日迄其社号ニ減少ノ二字

ヲ添フヘシ而シテ是等ノ文字ハ右期限迄其社号ノ

一部ト見做スヘシ

第八節 各銀行ハ其本店枝店トモ一般休暇ノ外營業

時間ハ午前九時ヨリ午後三時迄タルヘシ

但午前九時ニ開店セズ午後三時前ニ閉店スルカ

如キハ其店徴カニシテ人ノ請求ニ應シ金銀仕拂

ヲ兼行スル能ハサルモノト看做スヘシ

第九節 為替預金等ノ仕拂期日定式休暇又ハ臨時休

暇ニ當ルモノハ右休暇ノ翌日之ヲ仕拂フヘシ

第十節 此條例ヲ遵奉スル各銀行ハ諸報告掲示等ニ

ハ必ス其元金高者ニ入金高ヲ載スヘシ

第四條 株主ノ權利者ニ其制限ヲ明ニス

第一節 銀行ノ定式集會ハ毎年兩度宛執行スヘシ

第二節 右集會期日ヨリ少クモ七日前各株主ヘ郵便

或ハ他ノ手續ヲ以テ各簡ヲ傳達シテ會合ノ時日及

ヒ其集會ノ場所ヲ報告スヘシ但各簡傳達等ハ銀行

ノ入費タルヘシ

第三節 此銀行ノ頭取々締役ハ右定式集會ヘ銀行ノ

總勘定正算表ヲ指出シ社中ノ所有物并ニ負債ヲ示

シ純益ヲ明ニシ右割賦金ノ配分ヲ議スヘシ

第四節 此條例ヲ遵奉スル銀行ニテ正シク報告ヲ十

シタル定式集會又ハ臨時集會ニ出席セル者言ノ權

利アル株主本人ニテモ又ハ代人ニテモ三令ニ以上

ノ假議ヲ以テ一度決定シ其後十四日以上一ヶ月以

下ノ時日ヲ經テ正シク報告シテ執行スル第二集會

ニ於テ臨席シタル株主本人或ハ代人ノ假議ヲ以テ

確定スル事件ハ總テ別段ノ決議タルヘシ

第五節 此集會ニ於テ各株主ハ一株ニ付一説ヲ出シ

得ヘシ

第六節 当日ヨリ七日前ニ各株主ヘ各面ヲ以テ通知

セル集會ハ正シク召集セルモノト看做スヘシ

第七節 各株主ハ人員十名ニ下ラス其所持ノ株數銀

行總株ノ五分一ニ下ラサレハ何時ニテモ頭取々締

役ヘ臨時集會ヲ請求シ得ヘシ

第八節 右株主ノ請求者ニハ其集會スヘキ趣旨ヲ認

ムヘシ而シテ此各面ハ銀行ノ本店ニ留置ヘシ

第九節 頭取ヲ締役ハ右請求者ヲ落手セハ直ニ臨時
集會ヲ施行スヘシ若シ頭取ヲ締役等其請求セシ日
ヨリ七日ノ内ニ招集セサル片ハ右請求人或ハ其他
株主等規定ノ人員相謀テ招集スヘシ而シテ此集
會ニ於テ廢スル事件ヲ認メ議長ノ印ヲ捺シ之ヲ
紙幣頭ニ進呈スヘシ

第十節 現時施行セル別段決議ハ都テ尔後發行スル
キ定款ヘ之ヲ附録スルカ又ハ之ヲ編入スヘシ

第十一節 創立証各ノ写ハ定款ヲ附シテ之ヲ印刷シ
其望ニヨリ各株主ヘ二十五枚以下ノ價ニテ分與ス
ヘシ

第十二節 紙幣頭ハ銀行ノ總株四全一以上ヲ所持ス
ル株主等ヨリ出願スルニ於テハ其社中ヨリ撰挙セ

ル相当ノ人物一名又ハ一名以上ニ命シテ右銀行ノ
營業ヲ監督セシムルヲ許スヘシ

但右監督ノ費用ハ銀行有金ヨリ拂フヘキ旨紙幣
頭ノ特命アルニ非レハ右願入之ヲ美矣スヘシ

第十三節 株帳ハ取締役ノ取極タル適當ノ制限ニ從
ヒ營業時間中ハ何時ニテモ本店ニ於テ各株主ノ檢
閲ニ供スヘシ

第五條 銀行役員ノ勤向者ニ禁制ヲ明ニス

第一節 取締役ノ人員五名(内一人ハ頭取タルヘシ)ヨ
リ減少スヘカラス尤株主ノ根議ヲ以テ之ヲ増員ス
ルハ勝手タルヘシ

第二節 下ニ掲ケシ人々ハ取締役タル可ラス

第一 銀行ニ於テ十株以上ヲ所持セサル者

第二 銀行ニ於テ既ニ他ノ一役ヲ奉スル者

第三 一旦破産鎖店セシ者

第三節 各取締役ハ其所持ノ株券十枚ヲ銀行ニ付托シ其代リトシテ禁授受ノ三字ヲ附シタル保護預証各ヲ請取ル可シ而シテ右取締役奉職中ハ決シテ之レヲ引出スヲ得ベカラス

第四節 取締役三分ニハ本店創立ノ地ニ於テ少クモ一ヶ年間住居セシ人タルヘシ

第五節 定款中ニハ取締役順番交代ノ事其新任再任ノコト並ニ仮ニ不時欠員ヲ補フノ方法ヲ取定メ置クヘシ

第六節 頭取ヲ締役上任ノ節ハ紙幣頭ノ取定ムルカ又ハ其承認スル格式ニ從ヒ奉職ノ誓詞ヲ認メ同頭

ニ差出スヘシ但右誓詞ニハ地方官ノ奥印ヲ具フヘシ

第七節 各銀行ノ頭取ヲ締役並ニ支配人其他役員タルモノハ此條例ニ規定スル事務ノ外ハ銀行ノ役員トシテ一切他事ニ関係スヘカラス(第六條第九節ヲ

参考スヘシ)若條例規定外ノ事務ヲ處分シ或ヒハ人ノ處分スルヲ承諾スル片ハ斯ク不規則ナル取扱ヨリテ銀行ニ損亡アルハ之ヲ償弁スヘキハ勿論職掌悖戻ノ譴責ヲ被ルヘシ

第八節 頭取ヲ締役支配人其他ノ役員ハ社則ニ從ヒ尋常株主ノ借得ヘキ金額ノ外ハ自身又ハ仲人ヲ以テ銀行ヨリ借受ク可カラス若右役員中社則ニ於テ許サ、ル借財ヲ為シ或ハ他ノ役員ヲシテ之ヲ為サ

大 裁 省

シメ或ハ之ヲ美認スル等ノコアルキハ職掌ヲ持テト
看做シ相当ノ譴責ヲ蒙リシト右金額ハ速カニ銀行
ニ返済スヘシ

第九節 支配人ハ各取締役員ニ支配人其他ノ役員自
己ノ入用又ハ自己株主タル會社ノ入用ニテ銀行ヨ
リ借受タル金高計算各員ニ取締役支配人及ヒ自余
役員ノ請合ヲ以テ貸出セル金高ノ計算各ヲ製シ取
締役定式集會ノ節其檢閲ヲ受ケヘシ

第十節 頭取々締役員ト虽モ株主一同ノ決議ニテ取定
メシ給料手当ノ外一切所得ヲ受ケルコトナカルヘシ
第十一節 支配人以下ノ撰挙給料等ハ頭取々締役之
ヲ定ムヘシ

第十二節 銀行ノ支配人及ヒ他ノ役員ハ其銀行ノ株

ヲ所持スルヲ得ヘシト虽モ集會ニ於テハ自己ノ權
利ニテモ又ハ他人ノ名代ニテモ株主ノ列ニ入ル可
カラズ且銀行ハ其株ヲ質入シタル株主ハモ古質入
ノ株數ニ付テハ此規則ヲ施スヘシ(第六條十一節ヲ
参考スヘシ)

第十三節 取締役支配人其他ノ役員ハ私ニ銀行ノ金
銀所有物ヲ質入シ又ハ之ヲ掠取リ又ハ私ノ費用ヨ
供シ又頭取々締役員美認ヲ得スシテ預証各ヲ登シ
為替手形ヲ振出シ或ハ其引受ヲナシ約束手形証券
為替手形株數抵当品其他証各ノ類ヲ讓渡シ又恣ニ
約束ヲ結ビ貸金ヲ為シ以テ銀行ノ株主會社官吏銀
行實際ノ検査役及ヒ自余ノ者ヲ欺騙損害シ又ハ他
ノ取締役支配人其他ノ役員ヲ欺カント謀ルベカラ

大 裁 省

ス若此数件ヲ犯スモノアラハ國法ニ從テ之ヲ罪科
ニ處ス入シ且取締役支配人其他ノ役員中誰彼ヲ問
ハス是等ノ処分ヲ承諾セシモノアラハ亦右同罪タ
ルヘシ

第十四節 取締役支配人其他ノ人々詭計ヲ以テ其銀
行ニ屬スル帳面各類報告計表証書ノ類ヲ毀傷改易
扯裂贗作シ又帳面証書報告計表等ニ詐譎ヲ記載シ
或ハ其要件ヲ脱落シ又ハ右等ノ所業ニ同意スルモ
ノアラハ亦夕國法ニ從テ罪科ニ處スヘシ

第十五節 取締役支配人自他役員タルモノ其銀行ノ
株主或ハ債主ヲ欺騙センカ爲メ又ハ或人ヲシテ社
中ニ入ラシメ或ハ金銀所有物等ヲ銀行ニ附托セシ
メン爲メ或ハ銀行ノ堅固ナルヲ保証セシメン爲メ

ノ詭計ヲ以テ其要件ニ詐譎アル報告各又ハ計算各
ヲ公布シ又ハ右等ノ所業ヲ助ケ或ハ之レニ同意ス
ル等ノコアラハ國法ニ從テ之ヲ罰スヘシ

第十六節 此條例ヲ遵奉シテ營業スル銀行ノ取締役
支配人若シ自他役員タルモノ他會社或ハ他人ノ委
托ヲ受ケテ管守スル物品或ハ代金取立ノ爲メ又ハ
保護ノ爲メ委託ヲ受ケタル爲替手形若シ証書其他
金銀ニ代用スル各付類ヲ賣却授與シ或ハ之ヲ抵当
トナシ其他之ヲ自己ノ用又ハ銀行ノ用ニ供シ或ハ
右ノ如ク委託シタル者ノ外他人ノ用ニ供スル等ノ
所業アルヘカラス若シ右等ノ所業ヲナシ或ハ之ヲ
ナサシムルニ於テハ相當ノ罰ニ處スヘシ

第十七節 取締役支配人其他ノ役員故意ヲ以テ條例

大 裁 省

箇條ヲ破リ又ハ人ヲシテ之ヲ破ラシムルハ右
付銀行ヨリ罰金ヲ取立タル上又ハ銀行ヨリ取立
ハキ罰金ノ代リトシテ紙幣頭ノ相當ト思考スル罰
金ヲ右役員ニ命スヘシ

第六條 銀行事務一般ノ取扱方ヲ明ニス

第一節 此條例ニ從テ創立スル銀行ハ其元金ノ内左
ノ割合ハ實際株主ヨリ入金シ且後ニ掲載スル如ク
其半高ヲ以テ公債証券ヲ買受ケ出納寮ニ付托セシ
上ナラデハ紙幣頭ヨリ開業免狀ノ下渡ヲ得ヘカ
ス第六節ヲ参考スヘシ

元金ノ内實際入金スヘキ割合ハ如左

- 二十万圓以下ノ元金ナラハ 五割
- 二十万圓以上三十万圓マテハ 四割

- 三十万圓以上四十万圓マテハ 三割
- 四十万圓以上 二割

廿以レ

第二節 紙幣頭ハ銀行ノ預金等増加スルカ又ハ營業

盛大ニナリテ現在ノ入金高ニテハ不足ナリト思考
セハ大藏卿ノ許可ヲ得テ姓名ヲ自記シ官印ヲ鈐シ
タル令狀ヲ以テ其銀行ノ都合ニ任セ從來ノ株主ヨ
リ入金ヲ促スコ又ハ新株ヲ發行シテ若干ノ金額ヲ
其取極タル時日ノ内ニ召募スヘキ旨ヲ命スヘシ若
シ銀行此命アリテ後入金高ヲ増加スルトヲ怠ルカ
ハ一日ニ付百圓宛ノ罰金ヲ命スヘシ

第三節 頭取ヲ歸役ハ銀行ノ營業次第ニ盛大トナル
カ或ハ債主ノ信用ヲ厚セン為メ令一層ハ金子ヲ要

大藏省

スル時ハ紙幣頭ノ義認ヲ得テ株主一同ヨリ残株金ノ全數又ハ半高ヲ入金セシムヘシ

第四節 定款中取締役等入金ヲ怠リタル株主ノ所持スル株數ヲ処分スヘキ方法ヲ取極メ置クヘシ

第五節 毎入金高ノ半ハ少クモ四末以上利付ノ公債証各ニ取替ユヘシ

第六節 総テ右公債証各ハ入金期日ヨリ一ヶ月申出納察へ差出シ出納紙幣兩頭ノ調印セシ受取証各ヲ申受クヘシ

第七節 右公債証各ノ利足ハ大藏省ノ規則ニ從ヒ半年毎ニ右銀行へ拂渡スヘシ

第八節 右出納察ニ預ケタル公債証各ハ紙幣頭ノ義認ヲ得テ別種同價ノ証各ト引換ル

ヲ得ヘク亦右証各ノ内引揚ケトナリタルモノアレハ其代リトシテ銀行ヨリ他ノ証各ヲ納ムヘシ又紙幣頭ハ兼テ出納察ニ預ケタル公債証各ヲ他ノ証各ト引換エヘキ旨ヲ命スルヲ得ヘシ尤右銀行ハ常ニ其入金當日ノ相場ヲ以テ入金ノ半高ニ當ル公債証各ヲ出納察ニ納置キ銀行領店ニ及ヒ大藏卿ノ指圖ニ從ヒ紙幣頭ノ取定メタル方法ヲ以テ出納頭ヨリ下渡ス迄ハ同察ニ蓄藏スヘシ
但シ各銀行ハ少クモ毎年一度出納察ニ至リテ右公債証各ヲ改タルヲ得ヘシ
第九節 此條例ニ於テハ約定手形為替手形其他ノ証各ヲ割引シ或ハ之ヲ讓渡シ當座各ニ定取預リ金ヲ

大藏省

受取リ貨幣地金銀ヲ賣買シ為替ヲ取組引請貸又
ハ抵當貸ヲナシ及ヒ保護ノ為メ物品ヲ預ル等ノ
ヲ以テ銀行ノ本務ト定ムヘシ

但シ何レノ銀行タリトモ紙幣頭ヨリ別段免許ヲ
得ルニ非レハ外國ニテ拂フヘキ為替手形ヲ買取
ルカ如キ自然其資財ヲ他國ニ置ヘキ海外ノ銀行
事務ニ關係スルヲ許サス

第十節 各銀行ハ左ニ掲ケタル件々ノ外地所家作ヲ
賣買シ或ハ之ヲ所持ス可ラス又實地拂済元金並ニ
別段積金總高ノ半以上地所家作ヲ抵當トシテ貸金
ヲナスヘカラス又船艦抵當ノ貸金ハ實地入金済ノ
高ト地所家作抵當ノ貸金トノ差ヲ以テ限リトシ且
決シテ右元金並ノ一ニ超過スヘカラス又銀行ハ

諸會社ノ株ヲ引當トシテ貸金ヲ為ス可カラス

第一 銀行ノ業ヲ管ムベキ家屋地所ハ之ヲ買取リ

之ヲ所持シ之ヲ賣拂ヲ得ヘシ

第二 拂期日ヲ過キタル貸附金ノ引當トシテ質入

トナリタル地所家作船艦株數ハ之ヲ引取リ

之ヲ所持シ之ヲ賣拂ヲ得ヘシ

第三 拂期日ヲ過キタル貸金ノ代リトシテ引渡サ

レタル地所家作船艦株數ハ之ヲ引取リ之ヲ

所持シ之ヲ賣拂ヲ得ヘシ

第四 銀行ニ屬スル質物又ハ銀行ニ係レル公債ニ

テ賣拂トナリタル地所家作船艦株數ハ之ヲ

買取リ之ヲ所持シ之ヲ賣拂ヲ得ヘシ

第十一節 此銀行ハ其株ヲ賣買シ或ハ抵當トシテ貸

大 歳 省

金ヲ十スヘカラス但貸付金返済日切トシテ其抵当
トシテ引受ルヲ得レモ六月月中ニ之ヲ賣拂フヘシ
第十二節 此銀行ハ元金ノ二割五分ニ至ル迄毎半年
純益金ノ内少クモ一割ヲ別段積金ト為スヘシ
第十三節 若シ右積金元金ニ割五分ノ高ニ至ル後
損耗或ハ他ノ事故ヲツテ右金高ヨリ減少スルモハ
其後毎半年利益金ノ内少クモ一割宛前ノ如ク元金
ニ割五分ノ金高ニ復スルマテ之ヲ積立ヘシ
第十四節 銀行ノ毎半年ノ利益金ハ其損失及ヒ諸費
ヲ補ヒ滞貸金又ハ頭取力締役等其返済ヲ思東ナク
考フル所ノ貸金ヲ引去ル上其現有純益ノ之ヲ分配
スヘシ且上ニ規定スル積金ニ割五分ニ割過スルモ
ニハ其一分ヲ分配スルモ妨ケナカルヘシ

第十五節 慥カナル引当物アルカ又ハ確實ナル引受
人アル貸付金ノ外ハ六月ノ期月ヲ過テ元利トモ
返済ニ至テサレハ滞貸金ト看做スヘシ
第十六節 各銀行ハ其本店若支店ニ於テ簿冊ヲ備ヘ
其營業計算ヲ詳明ニ記載シ置クヘシ且其簿冊ハ紙
幣頭ノ考案ニ依テ定メタル方法ニ從フヘシ
第十七節 銀行ハ為換方ヲ勤ムルヲアルノ手續ヲ
明カニス
第十八節 通常銀行ハ大藏卿ノ命アレハ大藏省又ハ各
地方其他ノ為換方ヲ勤ムヘシ其勤向ノ手續ハ大藏
卿ノ考案ニヨリテ其筋ヨリ差回スヘシ
第十九節 銀行ハ右為換方ヲ勤ムルニ付別段大藏省ヘ
抵當ヲ納ムルニ及バサルヘシ

大藏省

第三節 紙幣頭ハ大藏卿ノ承認ヲ得テ發行ニ於テ政
府ノ貨幣ヲ確實ニ預リ置キ差支ナク之ヲ仕拂ヒ其
職業ヲ手堅ク奉スルヤ否ヲ検査スル為メ時々官員
ヲ派出シ聊ニテモ不都合ノ下アルヲ登見スル片ハ
速ニ為換方ヲ免シ預ケ置タル金額ハ悉皆之ヲ返納
セシムハシ

但シ銀行ハ政府ヨリ預リタル金銀紙幣ノ種類ヲ
常ニ精密ニ區分シ置キ何時ニテモ官員東京大阪
ハ出細察其他府縣ハ地方官ノ検査ニ供スハシ若
シ検査ノ節預ケ金ノ高ニ不足アル款又ハ種類ヲ
取替ル等不正ノ所為アル下ヲ登見スル片ハ其金
高ヲ辨償セシムルハ勿論本支ノ趣旨ニ從ヒ為換
方ヲ免シ預ケ金ヲ返納セシメタル上相當ノ罰金

ヲ申付ハシ

第四節 銀行ハ右為換方ヲ勤ムルニ付キ其預リ金ノ
高銀行元金高入金濟ノ半高ニ刺過スル片ハ其刺過
シタル高ノ少クモ五割十分ノ五ハ公債証各ヲ以テ
銀行ノ庫中ニ積立置ヘシ

第八條 銀行償債ノ下ヲ明ニス

第一節 此銀行頭店スル下マル片株主タル者出金大
ハキ責任ハ此責任ノ始マリシ片既ニ拂期限ニ及ヒ
催促次第何時ニテモ返濟スヘキ借財ノ出来シタル
モノト看做スヘシ第七節及第二十一節ヲ参考スヘ
シ若シ又株主タル者同時ニ頭店スル片ハ銀行ハ既
ニ出金ノ請求アリシモノハ勿論後來出金スヘキ高
ヲ申立賦當ヲ受クルノ權マルハシ

大藏省

第二節 若シ株主出金人ノ名簿ニ入ル前又ハ其後ニ
死スル者ハ其継嗣或ハ遺産承受人タル者若死セ
セル株主ニ代テ銀行ニ出金スヘシ而シテ此継嗣等
ヲ以テ出金人ト看做スヘシ

第三節 銀行ハ下ニ掲ケタル如ク紙幣頭ノ監督ヲ受
ケ又ハ平穩ニ鎖店スルヲ得ヘシ

第四節 此條例ヲ遵奉シテ營業スル銀行左ノ件ヲア
ルニ於テハ平穩ニ鎖店スルヲ得ヘシ

第一 銀行定款ニ規定セル營業ノ年限滿ツルキ又
ハ銀行定款ニ規定スル銀行解散スヘキ事故
出來スルキ若シ株主集會ニ於テ平穩ニ銀行
ヲ鎖店セント決議スルキ

第二 銀行平穩ニ鎖店セント別段決議ニ及ヒシキ

第三 銀行其負債相當ニテ營業取続難キヲ看破シ
之ヲ鎖スノ良策タル特別決議ニ及ヒシキ
別段決議ヲ第二集會ニ於テ確定セサルモ、ヲ稱シ
テ特別決議ト云

第五節 平穩鎖店ハ之ヲ決議セシキ其手續ニ取掛リ
タルモノト看做スヘシ

第六節 銀行平穩ニ鎖店スヘキ決議ニ及フキハ頭取
ヨリ締役ヨリ其趣ヲ直ニ紙幣頭ヘ申出ツヘシ

第七節 銀行平穩ニ鎖店スルニハ其手續ニ取掛ル日
ヨリ鎖店ノ都合ニ依ルニアテサレハ直ニ營業ス
ヘシ又鎖店ニ取掛リタル後、株數ノ賣買受授其外
株主ノ交換ハ都テ廢棄ニ屬スヘシ但引受人ノ策
諾ヲ得テ取扱ヒタル株數ノ賣買ハ此限ニテアラス且

大 歳 省

右銀行ノ一會社タル權利ハ鎖店全成ノ日ニ到ルマ
テハ存在スヘシ

第八節 銀行平穩鎖店ニ由テ生スル件々如左

第一 所有物ハ其負債償却ニ供シ餘分アレハ其權
利ニ從テ株主等ニ分賦スヘシ

第二 銀行鎖店ノ事務ヲ取扱ヒ若シ其所有物ヲ分
賦スル為メ跡引請人ヲ命スヘシ

第三 株主集會ニ於テ相當ノ人々ヲ撰ヒ跡引請人
トナスヘシ及ヒ其給料ヲ取極ムルヲ得ヘシ

第四 跡引請人ヲ命スル上ハ株主集會或ハ跡引請
人ノ承諾ヲ得ルニ非レハ取締役ノ權利ハ都
テ廢却ニ屬スヘシ

第五 跡引請人數人ナル時ハ其上任ノ時ニ於テ取

定ムタル人員ニテ諸般ノ權利ヲ施行スヘシ
若豫メ此取極メナキ時ハ二名以上ニテ之ヲ
施行スルヲ得ヘシ

第六 跡引請人ハ出金人ノ名簿ヲ定ムルノ權アル
ヘシ而シテ此名簿ハ其人々ノ出金人タルベ
キ責任ノ確証タルヘシ

第七 跡引請人ハ銀行鎖店ノ決議後其資産ノ足不
足ヲ確量スル前何時ニテモ總出金人或ハ其
若干員ヲシテ其責任ノ制限ニ從ヒ銀行ノ負
債若シ鎖店ノ雜費ヲ弁支シ出金人等ノ海方
ヲナスカ為メ要用ナル金高ヲ出金セシムヘ
シ右出金ヲ求ムルニハ須ラク出金人中或ハ
其金高ヲ入金スル能ハサルモノ豫備ヲナ

大 歳 省

スヘシ

第八 跡引請人ハ銀行ノ負債ヲ辦済シ及ヒ出金人等ノ濟方ヲナスヘシ

第九節 銀行平穩ニ鎖店スルキハ其跡引請人及ヒ出金人ハ右鎖店ニ付テノ疑議ヲ裁断スルヲ紙幣頭ニ乞得ヘシ

第十節 銀行ノ撰任シタル跡引請人ノ内死去辞職等ニテ闕員生スル片ハ株主等集會シテ之ヲ補充スヘシ而シテ跡引請人又ハ出金人若誰ニテモ右集會ヲ召集スルヲ得ヘシ尤右集會ハ銀行ノ規則ニ掲ケタル方法或ハ紙幣頭ノ取定メタル方法ニ從テ之ヲ執行スヘシ

第十一節 跡引請人ハ鎖店全成スレハ直ニ其鎖店始

末ノ明細各ヲ製シ株主ヲ集會シテ之ヲ示シ且之ヲ弁説スヘシ而シテ此集會ヲ招募スルニハ其時日場所并ニ其趣旨ヲ載セ少クモ集會前一月間新聞紙ヲ以テ公布スヘシ

第十二節 跡引請人ハ此集會ヲ執行シタル趣旨ニ其月日ヲ紙幣頭ニ伸達スヘシ而シテ右伸達ノ日ヨリ滿三月月ニ及ハ、此銀行ハ解散セルモノト看做スヘシ

第十三節 銀行平穩ニ鎖店スルニ付止ヲ得ス生シタル諸雜費并ニ跡引請人ノ給料ハ他ノ負債ニ先ツテ銀行ノ資財ヨリ仕拂フヘシ

第十四節 銀行平穩ニ鎖店スルキ紙幣頭ハ其監督ヲ要スルト思考スレハ其鎖店ヲ監督スルノ權アルハ

大 裁 省

シ且何時ニテモ其償債ノ運ヒヲ検査シ及ヒ跡引請
 人ヲシテ其要スル如キ報告ヲ為サシムルヲ得ヘシ
 第十五節 此條例ニ從テ創立スル銀行左ノ事件アル
 ニ於テハ紙幣頭ノ監督ヲ以テ鎖店セシムヘシ
 第一 銀行自ラ紙幣頭ノ監督ヲ受テ鎖店スヘキ別
 段決議又ハ特例決議ニ及ヒシ片
 第二 銀行結社後六ヶ月内ニ開業セサルカ或ハ六
 ヲ月間営業ヲ休止スル片
 第三 株主十名以下ニ減少セシ片
 第四 銀行其負債ヲ拂フ能ハサル片
 第十六節 此銀行左ノ件々事實アルニ於テハ其負債
 ヲ拂得サルモノト看做スヘシ
 第一 若シ此條例ニ規定シタル営業時間全ク其店

ヲ開カサル片(第三條八節ヲ參考スヘシ)及ヒ
 誰彼ヲ問ハス銀行ノ債主ニ名以上ヨリ指出
 シタル各面ハ右意業ノ確証ト思考セラル、
 片
 第二 銀行其債主ノ請求次第仕拂フヘキ金銀アリ
 テ債主其仕拂ヲ受クヘキ店へ姓名ヲ手記シ
 実印ヲ鈐シタル其銀行ノ小切手ヲ以テ右金
 額ノ仕拂ヲ請求セシニ右請求後廿四時間ニ
 之ヲ仕拂フトヲ怠リ或ハ右債主ノ満足スヘ
 キ抵当ヲ渡シ又ハ約束ヲ取極メサル片
 第三 公裁ニテ銀行員公事トナリ其指令通りニ債
 主へ濟方ヲ為サシムル片
 第四 銀行其負債ヲ拂フト能ハサルヲ紙幣頭看破

第十七節 紙幣頭ヨリ監督領店ヲ命シタル片ハ其令
狀ニ記載スル時日又銀行自カラ之ヲ願請シタル場
合ニテハ其願各ニ記載シタル時日ニ於テ領店ノ手續
ニ取掛リタルモノト看做スヘシ

第十八節 銀行ヲ鎖店スルニ付其手續ヲ執行スル為
メ紙幣頭ハ一人以上ノ跡引受人ヲ命スヘシ

第十九節 右跡引受人ハ銀行ノ資産其他所有物ヲ管
守シ紙幣頭ノ命ヲ奉戴シテ鎖店ノ始末ヲ遂クヘシ

第二十節 紙幣頭ハ銀行鎖店ノ令ヲ下ス後直チニ由
金人ノ名簿ヲ定メ及ヒ銀行ノ資産ヲ蒐集シテ之ヲ
清償ニ供セシムヘシ

第二十一節 紙幣頭ハ銀行鎖店ノ命ヲ下セシ後何時

ニテモ銀行資産ノ不足ヲ檢知スル前後ニ由金人
ヲシテ其責任ノ制限ニ從ヒ入金ヲ為サシムヘシ右
入金ヲ命スルニハ宜ク由金人中或ハ其金高ヲ拂フ
能ハサル者ノ豫備ヲナスヘシ

第二十二節 紙幣頭ハ右鎖店ヲ命スル片ハ直ニ其銀
行ヨリ受取ルヘキ金額其他依託物ナルモノハ確証
ヲ以テ官命跡引受人ヘ申立ヘキ旨ヲ公布シ且銀行
ニ負債アル者ハ姓名ヲ取調ヘ其取立方ヲ為スヘシ

第二十三節 債主タルモノハ誰彼ヲ問ハズ銀行ヨリ
受取ルヘキ金額又ハ付託物ヲ跡引受人ノ満足スル
証拠ハ以テ取定メタル時日ノ内ニ申立サレ片ハ其
申立前ノ割賦ニ預ル手得サレハ

第二十四節 鎖店ノ手續全成スル片ハ紙幣頭ハ本日

ヨリ解散スヘキ旨ヲ命シ隨テ銀行ハ解散スヘシ

第二十五節 右銀行頭店ニ付テノ諸雜費等ニ官印跡引受人ノ給料ハ都テ他ノ負債ニ先ツテ銀行ノ資財ヨリ拂フヘシ

第二十六節 紙幣頭ハ大藏卿ノ承認ヲ得時宜ニヨリ其監督ヲ以テ銀行ヲ頭店スルニ付幾回ニテモ公事訴訟ニ關スル費用ノ手段ヲ取設クルヲ得ヘシ

第九條 銀行ノ事務實際検査及ヒ銀行訴訟ノヲ明カニス

第一節 紙幣頭其他銀行ノ事務ニ關係アル役員ハ此條例ニ從テ創立スル銀行ノ株主タルヲ得ヘカラス
第二節 紙幣頭ハ大藏卿ノ許可ヲ得テ各通常銀行ノ營業實際ヲ詳知スル為メ定例又ハ臨時ノ検査役ヲ

派スヘシ

第三節 右検査役ハ其銀行ノ諸簿冊計表各類等ニ貨幣手形紙幣地金銀及ヒ証書等ヲ検査スルヲ得ヘシ且紙幣頭ヨリ其適當ト思考スル特權ヲ与フルヲ得ルヘシ

第四節 右検査役ハ各面ヲ以テ其検査ノ次第ヲ紙幣頭ニ報スヘシ

第五節 此條例ニ從テ創立スル銀行ハ上ニ云ヘル検査役等ニ地方官廳ヨリ命シタル者ノ外決シテ他ノ検査ヲ受ケサルヘシ

第六節 紙幣頭ハ此條例ニ從テ創立スル銀行ヲシテ其指定ノタル規則ニ從ヒ時々報告計表ヲ差出サシムヘシ又各銀行ハ取締役等ニ支配人ノ姓名及ヒ其

省

増減ヲ紙幣頭ニ届ケ且別段決議或ハ特例決議ハ其時々写ヲ紙幣頭ニ差出スヘシ

第七節 通常銀行ニテ他ノ銀行或ハ商會其外取引先ヲ相手トシテ控訴スルカ又ハ他人ヨリ此銀行ヲ相手トシテ訴訟ノトマルモ都テ一般ノ訴訟法ニ從ヒ其地方官廳ニ於テ裁判スヘシ

第十條 銀行ハ追テ税金ヲ納ムヘキトモ各例改正等ノトヲ明ニス

第一節 此條例ニ從テ創立スル各銀行ハ追テ指定ムヘキ税金ヲ納ムヘシ

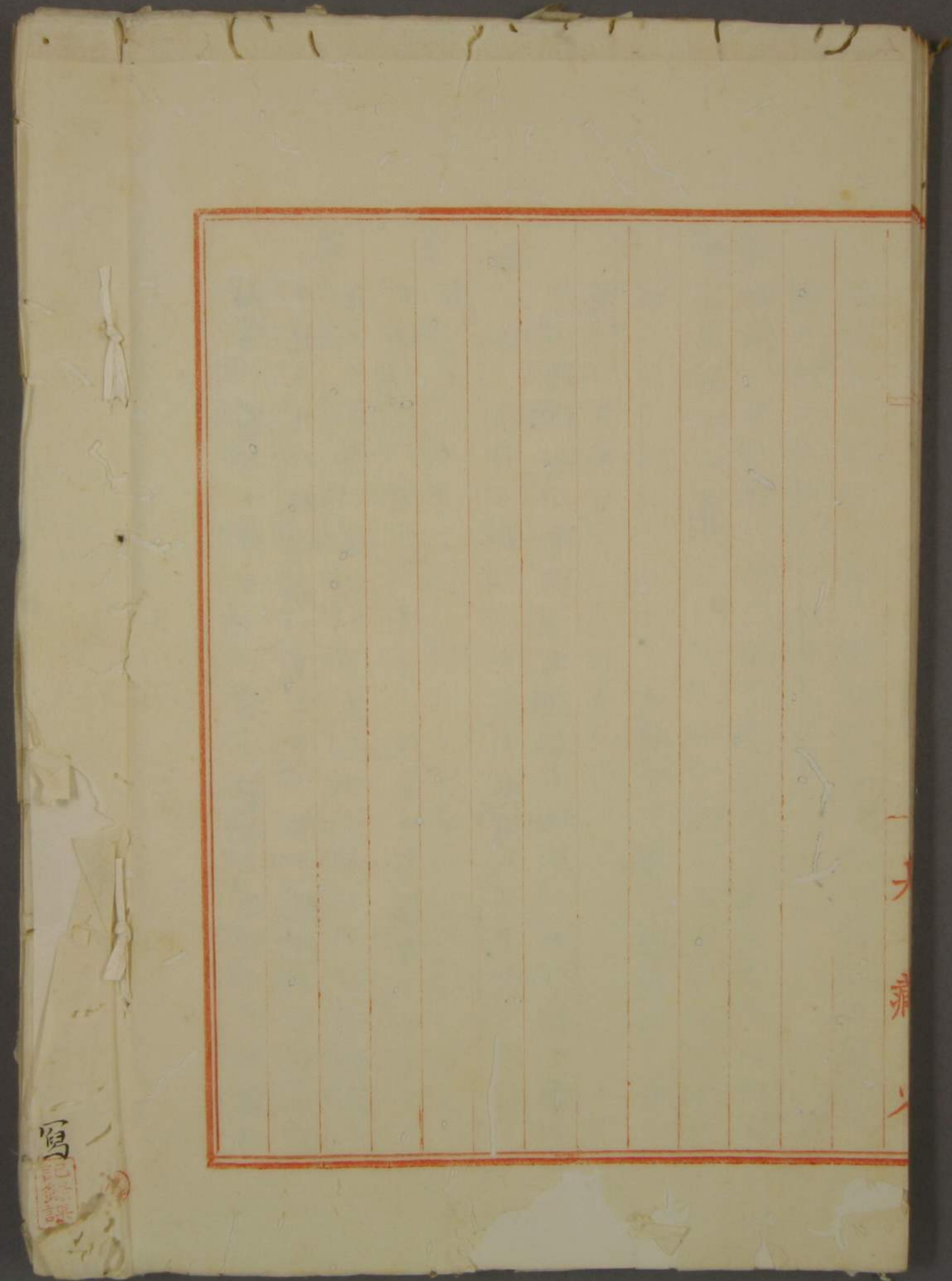
第二節 若シ此條例中現ニ罰金ヲ掲ケサル箇條ヲ犯スモノアレハ其時ニ當リ紙幣頭ハ大藏卿ノ承認ヲ得テ右犯罪ノ銀行或ハ取締役支配人其他ノ役員ニ

相當ノ罰金ヲ命スヘシ若シ罰金ノ取定マアル箇條ヲ犯ス片ハ紙幣頭ハ其考案ニ拠リ銀行ヨリ之ヲ取立タル上又ハ銀行ヨリ取立ツル代リトシテ犯罪ノ取締役或ハ支配人其他ノ役員ニ右罰金ヲ命スルヲ得ヘシ

第三節 政府ノ都合ニヨリテ要用ノトアレハ何時ニテモ此條例ヲ増補シ又ハ之ヲ改革シ又ハ之ヲ廢止スルトアルヘシ

右之通相定候事

明治 年 月 日



寫

紅印

六
痛
六